

# 令和2年度学校自己評価一覧シート

愛知県立 南陽 高等学校

教育目標	謙虚にして、自信の持てる、心身ともに健全な社会人の育成を期する	教育目標具現化のための本年度の方針	①地域に愛される生徒を育てる組織的生徒指導の徹底 ②基礎学力の定着と学力向上を目指す、教科指導・学習指導の充実 ③進路希望の実現と進路実績の向上 ④地域に根ざした特色ある教育活動の推進 ⑤心身の健康
------	---------------------------------	-------------------	---

分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度	最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標
1 (総務・集会)	(1) 式典を通じた厳粛な場における行動・姿勢の習得 (2) 愛校心および集団帰属意識の高揚	式典を厳粛に行いながら、儀式礼法を習得し、生徒に愛校心と集団帰属意識をより持たせるよう努める。	厳粛な式典の運営	各式典および集会における集合状況・身だしなみの他、TPOに応じた行動をとれるよう生徒に指導する。	集会時における生徒の集合状況、身だしなみ等、適切に指導がなされているか。	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、放送で実施した。	B	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、放送で実施した。	B	来年度以降も、コロナウイルスの影響を考えて臨機応変に対応していく。
				生徒が校歌・式歌等をしっかりと歌えるように指導するとともに、集会や式典に対し、積極的に参加する意識の高揚を図る。	校歌、式歌等をしっかりと歌えるか。表彰式、卒業式等の式典が適切に行われ、生徒自身が愛校心を持ちながら積極的に参画できたか。	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、歌唱指導をしていない。	-	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、歌唱指導をしていない。	-	コロナウイルスの影響を考えて、対応していく。
2 (総務・外部との連携)	(1) PTA・同窓会と協力し合う、三位一体の積極的な学校運営 (2) 地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校づくり	(1) PTA活動の充実を図るとともに、保護者の学校行事への参加率向上に繋がるよう、さまざまな行事を通じて、保護者相互の連携を強める。 (2) 同窓会・地元地域との連携強化を図り、地域に愛され、誇りとなる学校となるよう努める。 (3) 地域関係諸機関との連携を強化し、地域防災の意識高揚を図る。	保護者のPTA活動への積極的な参加の促進	PTA行事における保護者の一層の参加を呼びかけるとともに、保護者がPTA活動に参加したくなるような方策を講じ、活性化を図る。	PTA行事における保護者の参加状況は良くなったか。また、新規事業により、魅力あるPTA活動を行うことができたか。	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、PTAの活動を中止した。	-	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、PTAの活動を中止した。	-	コロナウイルスの影響を考えて、対応していく。
			PTA・同窓会・町内自治会等、各組織との積極的な連携	PTAや同窓会との強固な連携を図りながら、地元地域や中学校等への発信を積極的かつ適時に行う。本校のさまざまな活動内容を、より魅力のあるものとして外部に発信できるよう努力する。	PTAや同窓会および地域との連携が向上したか。	コロナ禍ではあったが、PTA・同窓会とも連携できた。	A	コロナ禍ではあったが、PTA・同窓会とも連携できた。	A	コロナ禍において、PTA・同窓会ともできることで連携していく。
			地域関係諸機関等と連携した防災行事への積極的参加と防災学習の充実	生徒自身が地域の防災活動に積極的に参加する機会を確保するとともに、校内における防災ポスターの掲示や有事に備えた防災訓練を実施する。	生徒が地域の防災活動に積極的に参加しながら、有事の際に、地域に貢献できる能力を高めることができたか。校内の防災ポスターを掲示し、より現実的な防災訓練を実施することができたか。	例年、体育館での防災訓練を実施してきたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、グラウンドにて実施した。また、放送にて日本赤十字社の方に、放送にて講話をしていただき、生徒に良い影響を与えた。	A	今年度は、コロナウイルスの影響により、計画通りの実施はできなかったが、やり方を変えて対応した。	A	来年度も、臨機応変に対応していく。
			創立50周年記念行事の準備	PTAや同窓会および地域と連携を図りながら、他校の情報収集に努める。	50周年記念行事への概要を提案することができたか。	50周年記念行事に向けて、PTA会長・同窓会会長と連携を図れた。	A	50周年記念行事に向けて、一步一步前進できた。	A	さらに、具体的に連携をとって対応していく。
3 (学習指導)	(1) 授業規律の徹底 (2) 予習復習の習慣化 (3) 公開授業・授業評価・研究授業研修による授業の質の向上 (4) 生徒実態に即した授業・評価方法の工夫	(1) 早期に学び直しを完了させ、基礎学力を確実に定着させるよう工夫する (2) 授業規律を徹底し緊張の中にも知的な好奇心を刺激し充実した授業を実施する (3) 少人数・習熟度別の円滑実施により、思考力・判断力・表現力を鍛える (4) 科目選択指導の工夫と改善を行うとともに、系列の特色を生かした専門性を高める指導内容、指導方法を工夫する。 (5) 主権者教育の充実 (6) 図書館機能を充実し、利用率と貸し出し数を向上させ、読書活動を推進する (7) 校務支援システムの円滑な活用 (8) カリキュラム・マネジメントの確立	学習習慣の確立と授業改善	本校の現状を分析し、学習習慣を身にための方策を検討する。予習・復習の徹底を目指す、「定期的な課題」や「小テスト」を通じて、学習習慣を身につけさせ、学力を向上させる。主体的で対話的で深い学びの実現に向け、「授業公開」「授業アンケート」を柱とし、「問いに関する研究」や「ICT機器及びアクティブボードの活用」、「学習方法を教える」といった活動を通して、授業改善をする。基礎学力充実のための「学年コンテスト」のあり方を検討する。	生活実態調査や基礎力診断テストにより本校の現状分析が出来たか。生徒の授業外学習を調べ、その時間が増加したか。「問いに関する研究」や「ICT機器・アクティブボードの活用」、「学習の仕方を教えること」を行うことで、授業改善ができたか、授業アンケートや授業公開の参観者数などにより判断。学年・教科と連携し、持続可能な学年コンテストを企画・運営できたか。	生活実態調査の状況によると、昨年度に比べると学習をしない生徒が若干減少しているが、臨時休業の影響も考えられるため、引き続き家庭学習の重要性を伝えていく必要があると考えられる。授業公開週間については、昨年度に比べると参観者が大幅に減ってしまったため、日程も含めて再検討が必要である。ICT機器については、新たにテレビを設置するなど環境を整えることができた。	B	生活実態調査の状況から、授業外学習時間が増えたとは言えず、引き続き声掛けが必要であると考えられる。3月の授業等で来年度に向けた声掛け等を実施していきたい。また、授業アンケートについては、昨年度に引き続き授業改善に関して先生方で考えて頂くことができた。継続的な授業改善を実施していきたい。学年コンテストは日程を変更し実施しているが、授業に紐づけた取組は非常に効果が高くなっていることも分かった。次年度以降の参考にしていきたい。	B	ロイノート等を活用した週末課題の提示と、新学習指導要領に対応した授業改善
			授業規律の確立	守るべき授業規律を徹底する。「授業指導連絡票」や「授業懇談会」の活用。	守るべき授業規律がほぼ守られているか、授業指導連絡票の提出状況や内容により判断。授業への参加態度は良好か。携帯電話使用による指導回数が前年度に比べて減少したか。	授業指導連絡票の枚数は昨年9月時点と変わらない。休校期間を考慮するとやや増加している。授業規律はほぼ守られているが、休校明けは集中力に欠ける姿が見られる。	B	昨年、一昨年度の12月時点よりやや減少している。休校明けや夏休み明けに欠けていた集中力も秋以降には引き締まり、時間を守って行動する姿勢が多く見られた。一方で、携帯電話に関する指導回数は昨年より5件増え、65件となった。	B	長期休業明けに携帯電話の利用法について再度確認するとともに、各授業の開始時にも声掛けを行う。
			教育課程と科目選択の改善	令和4年度入学生の教育課程編成系列に関する組織作りを行い、カリキュラム・マネジメント確立へ向けた下地ができたか。科目選択指導充実に向けた模擬授業日程の変更	令和4年度入学生の教育課程を編成できたか。系列に関する組織作りを行い、カリキュラム・マネジメント確立へ向けた下地ができたか。前年度に比べ、模擬授業に関する指導が円滑に行えたか。	令和4年度入学生の教育課程については、順序立てて編成を行っている。若干ベースが遅いように思うが、委員会・教科等連携しながら編成を行っている。模擬授業については、教務による確認を増やすなど、より円滑な指導を行うことができた。	B	令和4年度入学生の教育課程を編成することができた。系列や学校設定科目の見直し、自由選択群の確保を行うことで、総合学科としての魅力を発展させた教育課程にすることができた。また、系列会議で系列の目標や身につけたい力を検討してもらったなど、カリキュラム・マネジメントの確立に向けた取組を行うことができた。模擬授業については、コロナ禍の中で当初の計画通りには進まなかったが、工夫を行うことで円滑な指導を行うことができた。	A	カリキュラム・マネジメントの確立
			図書館機能の充実	蔵書整備で必要な資料を揃え、提供し、授業や総合で活用される場を作る。	適切な図書を選定、購入、廃棄ができたか。利用冊数及び利用人数は増加したか。図書館外での図書の活用が出来たか。教室内のラックの活用が出来たか。	必要に応じた資料を選定、購入することができた。廃棄は今後行う予定である。利用人数と冊数においては、今年度は臨時閉館や座席数の減少等利用機会が減少した。館外活動は、教室のラックや放送等で読書推進活動を行うことが出来た。	B	選定・購入、廃棄については適切に行うことが出来た。利用については人数冊数ともに減少した。教室で本を活用する授業の増加、クラスへの本の常設・入替、放送での本の紹介など館外への活動は増加した。	A	令和4年度を見据えて科目に合わせた選定・購入を行い適切な蔵書を増やす。図書館外での読書推進活動を定着させる。図書委員会でも主体的に読書活動に取り組みする生徒を育てる。
			校務支援システムの円滑運用	さらなる効果的・効率的な運用を目指したシステムの研究	効果的・効率的な運用を行えたか。	ダミーの廃止などの新しい取組が行われているが、一般ユーザー向けの効果的な運用はまだ改善の余地がある。	B	各教科のメソシアへの成績入力等でのミスが数件あった。素点や評定の入力の際のチェック機能を強化していく必要性がある。	A	新しい教育課程に向けたメソフィアの再設定

	分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度	最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標	
4	(進路指導)	(1)計画的・継続的進路指導 (2)保護者への進路情報の充実 (3)大学企業研究・見学の充実 (4)組織的進路指導法の研究 (5)推薦合格生徒の学力保証	(1)生徒個々の夢や適性を見据え、3年間を見通した指導体制の確立 (2)インターンシップや大学での学びの拡大により、夢を持たせ将来設計を構築させる (3)資格取得・補習・模試・共通テスト等へ意欲的に取り組ませることによる粘り強く挑戦する生徒の育成 (4)保護者へ提供する進路情報の充実と教員研修の充実	3年間を見通した指導体制の確立	高大接続改革も見据え、進路研修会の内容をより効果的なものにして、本校の進路指導についての共通理解をはかる	進路指導についての共通理解、経験の継承ができたか。	限られた時間内で第3学年の進路指導について共通理解が得られるよう図ったが、今年度からの入試形式・日程の変更などへの対応は難しかった。	B	調査書の様式変更、今年度からの入試日程の変更、コロナ対応による大学・専門学校との動きなどに対して必要な情報発信は行ったが、すべてに共通理解を持つまでには至らなかった。	B	新しい入試日程の周知徹底と、近年の進学・就職動向の共通理解の推進。	
				補習等での学びの拡大と充実	補習・模擬試験等について情報を周知、参加の呼びかけを強化して、参加に結びつける。	積極的に取り組ませることができたか。	特に模試に関しては3学年とも対象者に積極的に取り組ませることができている。	B	模試については進学希望者の参加につなげることができた。補習については、部活動との兼ね合いなどもあり、例年通りの参加にこどまった。	B	大学進学希望者への模試受験指導の継続及び、補習の呼びかけ。	
				保護者へ提供する進路情報の充実	P T A総会後に進路講演会を実施するとともに、保護者会では配布資料の内容を充実させ、必要な情報を発信する	十分な情報提供ができたかをP T A進路委員会での振り返りの状況で判断する。	30分のため進路講演会は実施されなかった。保護者会配布資料は担任の負担も考えて必要性の高いものに絞った。	B	保護者会での情報発信を担任向けにまとめるなど、必要な情報の精選に力を尽くした。	B	進路講演会の充実と保護者会における情報発信の精選と担任の先生方への周知の継続	
5	(生徒生活指導)	(1)身だしなみ指導、遅刻・欠席指導を学年中心に指導しきる体制の確立 (2)交通安全指導の徹底、非行防止、問題行動(いじめ)の根絶 (4)交通安全指導の徹底	(1)将来の社会人、職業人としての規範意識やマナーを徹底指導し、基本的な生活習慣が確立された高い品位、品格と道徳心を持つ生徒の育成 (2)いじめ防止基本方針に則り、いじめのない安心・安全な学校づくり (3)スマートフォン、携帯電話等の使用方法について職員の共通理解のもと指導 (4)交通安全指導の徹底	いじめのない安心・安全な学校づくり	生徒観察や心の健康アンケートなどを通し、生徒の心理変化や環境変化に気付き、早期発見に務め学年・学校全体で即時対応をする。	いじめの早期発見・早期対応ができたか。	いじめの恐れや訴えがあった時に、素早く面談などを行うことができた。	A	中間評価以降も生徒間トラブル等に迅速に対応することができ、大きないじめ案件につながらないようにできた。	A	SNSからのトラブルが依然多いので、SNSの使い方に関しては継続して注意を促す。	
				身だしなみ指導の充実	定期的な点検、登校指導、巡回指導により、制服の正しい着用・清潔な頭髮の維持・装飾品の不着用を徹底させる。	整った身だしなみで学校生活が送れているか。	化粧カード・スカート指導カードの件数が昨年度と比較して大きく減少した。頭髮に関しても、声掛けをすれば素直に改善する生徒が多かった。	B	化粧カード・スカート指導カードの件数が昨年度と比較して大きく減少した。頭髮に関しても、声掛けをすれば素直に改善する生徒が多かった。	B	スカートに関してはハイウエストで履く生徒が増えたので、声掛けは徹底をしていきたい。	
				時間を守る意識の高揚	遅刻カードを導入し、さらに遅刻指導の徹底を図る。授業や教育活動の場面で時間が守られるよう指導する。	年間の遅刻指数が昨年度より減少したか。	9月末時点で昨年度と比較しても遅刻指数が横ばいである。	B	昨年度と比較して遅刻指数が増加してしまった。特に、2学期後半からの遅刻数の増加が顕著に見られる。	B	遅刻数が特に多い生徒が増えた。この生徒を減らしていくことで、全体の遅刻をしない雰囲気づくりを円滑にしていこう。	
				安全意識やマナー・モラルの向上	校内外での啓発活動を充実させ、更なる意識の向上を図る。集会などの講話で他人を思いやる気持ちの大切さを伝える。	校則違反や法律違反による指導件数が減ったか。指導を行った生徒のその後の生活が改善されたか。	地域から寄せられるお叱りの電話が多く寄せられる。その都度周知をしてモラルの向上を図っている。	B	指導件数は現時点で減少したが、一方で指導措置の重い事案は増えた。その後の生徒の様子は改善された生徒が多い。	B	指導を受けた生徒への継続指導(面談)は効果的であったと思う。全教員で分担して行っていきたい。	
6	(生徒会活動)	(1)部活動の活性化 (2)生徒会活動、学校行事の充実 (3)地域交流やボランティア活動の推進により自己有用感を醸成する。	(1)生徒会活動、学校行事、部活動への意欲を高め学業との両立を図る。 (2)生徒委員会活動を充実し、生徒が自ら意欲的に学校づくりに参画する機会を作る。 (3)地域交流やボランティア活動の推進により自己有用感を醸成する。	部活動の活性化	メリハリのある部活動をめざし、学習と部活動の両立できる環境を整える。 単に部活動への参加人数を増やすだけでなく、3年間継続していきける環境整備を検討する。 部活動の数を精選し、指導しやすい環境を整える。	限られた活動時間や活動日数の中で効率よく活動することができたか。 生徒の活動状況を把握し、活性化に繋げることができたか。 部活動の数が適正数に精選できたか。	B	6月開始ながらも今ところ順調に部活動ができている。部活動の精選については、現在部顧問に話を聞いている。	B	コロナ対策をしながら部活動を実施することができた。大会自体はかなり減ったが、活動を継続することができた。	B	部活動における感染症対策の徹底
				生徒会活動の活性化	生徒会執行部との連携をしっかりと図り、南陽祭をはじめとする学校行事を、生徒が主体性を持って企画・運営できるように指導・支援する。	生徒会執行部と顧問の間に連絡・報告・相談がしっかりと行われていたか。 生徒会執行部の生徒だけでなく、それ以外の生徒も主体性を持って活動することができたか。 昨年度の反省をもとにより良い活動に改善することができたか。	コロナウイルス感染拡大の影響で例年とは違う形の文化祭になったが、中でも生徒会役員を中心として運営をすすめることができた。	B	コロナにより生徒会役員が運営する行事が文化祭と体育祭の2つになったため、活躍の場は減少したように感じる。ただ感染対策をしながらも中止にせず実施することができた。	B	来年度もコロナ対策は必要だと思われるので、早めの対策をすとともに、生徒会役員が対策も含めて運営ができるようにする。	
				ボランティア活動の充実	生徒会部として実施可能なボランティア活動を検討し、年間を通して計画的に実施していく。	ボランティア活動の回数が増加したか。 ボランティア活動への参加人数が増加したか。	コロナウイルス感染拡大のため実施できていない	-	ボランティア活動があれば無理のない範囲で参加をさせる。	-	ボランティア活動があれば無理のない範囲で参加をさせる。	
7	(学校保健)	(1)心身の健全育成 (2)清掃指導の充実による校内美化の推進 (3)スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を強化し、支援を必要とする生徒への教育相談体制の充実を図る。	(1)計画的、適切に健康教育を充実させ、保健管理票を活用するとともに、生徒及び教職員の心身の健康が維持されるよう努める。 (2)清掃指導の充実、施設・設備の定期的な安全点検の実施により、清潔で安全な校内外の環境づくりを推進する。 (3)スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を強化し、支援を必要とする生徒への教育相談体制の充実を図る。	生徒・教職員の心身の健康の維持	健康診断を適切に実施するとともに、詳しい検査や治療が必要な生徒への指導を徹底する。 教室や廊下に保健に関するポスターなどを掲示し、啓発活動を行う。	健康診断が適切に実施されているか。 治療報告書の提出状況が改善されているか。 生徒が保健に関する掲示物に興味を示し、自分のこととして捉えているか。	B	健康診断を適切に実施することができた。また、治療報告書については、視力、聴力、歯科の3項目について昨年度より提出率が上がった。 掲示物については、感染症に関するものを多く掲示したが、生徒の意識を高めるためには、別のアプローチの必要性も感じた。	B	生徒の健康課題を明確にし、特に大事なことについては保健指導や啓発活動を集中的に行い、意識の向上を図る。		
				清潔で安全な校内外の環境づくり	教員による指導の下、通常清掃や大掃除をしっかりと行わせる。 「美化デー」、「トイレパトロール」、「ワックスがけ」、「掃除道具入れの点検」などの委員会活動を充実させる。 定期的に安全点検を実施するとともに、週に1回のペースで校内巡視を行う。	教員による指導の下、通常清掃や大掃除が行われているか。 委員会活動がしっかりと行われているか。 校内が安全な環境に保たれているか。	通常清掃、大掃除に関しては、十分な取り組みができている。委員会活動は、新型コロナウイルスの関係で例年ほどの活動ができている。安全点検は、各担当者の協力で危険な場所の早期発見、修繕が行われている。	B	通常清掃、大掃除については、年間を通して十分な取り組みができた。委員会活動については、より効果的な活動を目指して、実施方法を改善していく必要がある。安全点検については、学期末ごとの点検を行い、校内を安全な環境に保つことができた。	B	「美化デー」を利用した校内美化の効率的な実施、ごみの分別についての啓発などを委員会活動を通して実施していく。多くの生徒が意欲的に活動してくれるので、その意欲を最大限に活かせるような指導をしていく。	
				教育相談体制の充実 S C・S S Wとの連携	担任、学年主任、SC、SSWとの連絡を密にし、生徒の情報を共有する。 相談室を開設するとともに相談担当の教員を配置し、生徒が相談しやすい環境を整える。 月に1～2回、SCに来校してもらい、カウンセリングを受けられる機会を設ける。	担任、学年主任、S C、S S Wとの連携がとれているか。 支援が必要な生徒の情報を共有し、必要な支援が行われているか。	生徒指導部とも連携が取れており、体制は整っている。支援が必要な生徒が増加傾向にあるので、カウンセリングの機会をさらに設けていきたい。	B	養護教諭から生徒情報がこまめに入るので早期に対応することができ、S CやS S Wに繋げることができた。相談係2人で役割分担して相談活動を進めることができた。また、保健室対応を学年に依頼したところ、学年主任をはじめ学年団の理解と協力を得ることができ、保健室へ来る教員が増えて生徒理解も深まった。	B	カウンセリングを必要とする生徒数、継続相談が必要な生徒数、相談内容が重いケースが多い。保健室対応を他学年にも広げて定着させ、一人の生徒により多くの教員が関わられるようになっていきたい。	
8	(総合学科)	(1)総合学科としてのあり方研究 (2)キャリア教育の充実 (3)地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校づくり	(1)本校の教育内容を、より多くの人に知ってもらえるよう、効果的な広報活動を行う。 (2)「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」のより効果的な指導を探る。 (3)生徒が主体的に活動できる教育活動が実施できるような提案を行う。	広報の充実	広報を充実させ、本校に興味を持つ中学生やその保護者の増加を図る。	学校説明会等の参加者数を増加させることができたか。	B	コロナ禍の影響もあり、学校説明会・体験入学の参加者数は減少したが、感染症対策を施すことで、中止することなく実施できた。	B	学校説明会等のポスターを早期に作成し、より効果的に中学生に伝わるようにする。		
				「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」の効果的な指導を探る	絶えなき改善を実施し、担任が円滑に授業ができるように、指導計画を提案する。	「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」の運営について、学年から評価を得ることができたか。	学年より、一定の評価をいただいている。	B	学年より、一定の評価をいただいた。	B	より指導がしやすい方策を考え、実行していく。	
				総合学科発表会の充実	年度当初より計画を立て、全体で運営ができるようにし、行事の充実をはかる。	計画的に総合学科発表会の準備をすることができたか。	新型コロナウイルス対策の計画を立て、実行中である。	B	教員用タブレットやプロジェクトを活用し、動画実施を行った。	B	生徒主体の発表会になるよう、改善をはかる。	
9	(地域連携)	地域に貢献し、愛され、地域の誇りとなる学校(文化の殿堂)	(1)地球規模で考え地球視点で行動する地域連携事業の確立 (2)地域に愛され、信頼される学校づくりの方針と情報の発信活動の充実	国際理解教育の推進	国際理解検討委員会の計画をもとに、国際理解を促す内容を学校行事等のテーマに盛り込み、計画から発信まで年間を通して、国際理解教育を充実させ、生徒の課題解決力を向上させることができたか。	国際理解を促す内容を学校行事等のテーマに盛り込み、計画から発信まで年間を通して、国際理解教育を充実させ、生徒の課題解決力を向上させることができたか。	-	オリンピック・パラリンピック教育と関連付けて、11月に実施予定。	A	生徒の継続した取り組みを促し、卒業後の行動指針として定着させる。		
				地域連携の推進	授業や部活動で地域や企業との連携事業を展開しながら、生徒の成長を促す。またその様子を地域に発信する。	授業や部活動で行う地域や企業との連携事業で生徒が成長したか。また、地域に発信することにより、地域の信頼を高めることができたか。	新型コロナウイルス感染症の影響により、連携事業が縮小しているが、関わった生徒は成長が見られる。	B	連携事業に関わる生徒は減少したが、関わった生徒については、例年以上に密接な関係を外部の方々と築くことができ、地域の信頼を高めることができた。	B	今年度縮小してしまった事業などについては、例年並みの取り組みに戻し、地域の信頼を高めるため実績を積み重ねる。	
10	多忙消化	業務改善を進め、在校時間を適正化する	(1)長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化 (2)業務改善に向けた取組	働き方の改善	施錠時間を20時とし、定時退校日の設定日を増やす。部活動ガイドラインに沿った形で働き方改革を進める。	在校時間等の状況記録で、時間外勤務が80時間超の人数が減少したか。	昨年度から変化は見られない。	B	昨年度から若干減少している。	B	効率的に業務に取り組み、在校時間の減少に向けて、意識改革を促す。	